

グループ協議の内容・シンポジウムの感想より（子ども教育支援課まとめ）

グループ協議「子どもと大人でつくりだす 豊かな学びとは・・・」より

授業の質が変わってきている。グループワークなどの学習スタイルの方が記憶力の定着を含めて、よいと思う。(中学生)

答えを出したら終わり、ではなく、興味を持ったり深く考えたいと感じたりしたことに対して、探究する時間をとってほしい。(中学生)

LIFE という総合学習で、地域をよりよくするために主体的に行動する活動がある。生徒が中心となる活動であるため、そこには主体的・対話的な活動も自然と多くなる。そのような活動には達成感がある。(中学生)

自己肯定感の話があったが、まずは自分のことを認められると様々な人とつながっていきけるのではないかと。大人同士のつながりが、こどもたちのつながり、ひいては地域で子どもを見守っていく形へとつながっていく。(保護者)

「教師もともに学ぶ」ことが大切であると思う。教師を目指しているので、私自身、学び続けていきたい。(大学生)

部活動の活動時間が減っている、しっかりと部活がしたい、という中学生の声があった。部活動に限らず、学びにおいても子どもの声に耳を傾けず、「子ども」が置いていかれていることもあるのではないかと。もっと子どもと大人、一緒に立場で話し合っって学びの場を考えていくことが大切ではないかと。(保護者)

コロナで PTA の活動が縮小されたが、一方で、大事なことが何かを見直す機会にもなっている。学校・家庭・地域の連携の大切さを、みんなで共有し、子どもの育ちの広がりと一緒に考えていきたい。(保護者)

新しい社会をどう生き抜くかの力をつける。ただ覚えるだけの知識だけでなく、得た知識をどう使っていくか。入試制度の変革や授業スタイルも新しくなっている。多様性に応えることができる教育を行う必要がある。(教職員)

コロナ禍で保護者・地域とのつながりが減ったが、垣根を低くして学校に入ってもらっている。これまでの行事について、試行錯誤しながら子どもの学びを支えていく。(教職員)

数学は計算の仕方を教えてそれを使えるようにすることを大事にしていた。しかし、計算の仕方を先に教えるのではなく、答えを導き出すために必要な方法を自ら考えられるような授業も大切だと感じた。(教職員)

自分の子どもが、プログラミングのゲームを家で作っていた。試行錯誤しながら行っているのが豊かな学びにつながっていると感じた。学校でベース、家に帰り、個人でさらに深める姿があった。(教育委員会職員)

自分の子どもに学校での取り組みなどをノートに書いてもらい、それを親が読んで、次の日に子どもと内容について話すことをしている。学校はよい取組をしているので、地域にこの活動を広げられるとよいと思う。そうすればいろいろな視点が学校にも入る。(教育委員会職員)

PTA 主催のお祭りがあり、保護者が理科やものづくりなどの講座を開いて生徒が学ぶという関係性がつくられた。探究のような学習につながっていくといい。(教育委員会職員)

余白と遊びを大切に、大人自身も楽しむこと。知的好奇心を引き出すために、寄り添った声かけのためにも大人に余裕がないといけない。(教職員)

コロナで PTA の活動が縮小されたが、一方で、大事なことが何かを見直す機会にもなっている。学校・家庭・地域の連携の大切さを、みんなで共有し、子どもの育ちの広がりと一緒に考えていきたい。(教職員)

シンポジウムの感想より

大人や教師の目線での話を聞けてよかったです。ありがとうございました。(中学生)

自分が今後、豊かな学びのために考えることが分かりました。本当にありがとうございました！(中学生)

子どもが豊かに学び続けるために、、、学校のメリットとして勉強だけではなく、色んな人と関わることができて、喜びや怒りを分かち合うことができることが挙げられると思うので、是非学校内での部活動などの授業外の時間にも目を向けていただけたらと思います。(中学生)

同い年の方と話す機会が多いのでたくさんの経験を重ねられている方と協議ができ勉強になりました。(大学・大学院生)

子どもたちの、これからの楽しい未来が感じられるシンポジウムでした。ありがとうございました。(保護者)

様々な立場の方とオンラインで手軽に話ができるので、各学校でも取り入れたらよりよい教育活動につながると思いました。(教員)

児童・生徒の皆さんが、自分の学びについてしっかりした考えを持っていることが伝わってきて嬉しくなりました。そして、明日からの仕事への力を貰いました。こうした喜びを地域・保護者の皆様とも分かち合っていける神奈川になるように…私もその一人として励んでいきます。(教員)

様々な立場から語り合うことで、気付けなかった視点を得られる機会となり、大変有意義な時間でした。(教育委員会職員)

まとめのところで、小中学生の生の声が聞けたことが特に素晴らしかったです。「人とのつながり」が大きなキーワードではないかと感じました。(教育委員会職員)

子どもと大人に限らず、神奈川全体で豊かな学びを作っていきたいと思いました。(中学生)

子どもが主体的に学び、周りの大人がサポートすることによって、子どもが楽しい学びを広めていけると感じました。(中学生)

現役の教師の方のお話やパネリストのお話を通して、今現在の教育や夜間学級の取組について知ることができ、とても有意義な時間を過ごせました！(大学・大学院生)

理想を現実になるようひとりひとりが力をあわせていけたらと思います。自分のできることを協力していこうと改めて思いました。(保護者)

色んな方の色んな意見が聞ける貴重な時間でした。自分自身を成長させる学びを止めないように、またそんな大人の姿を見て子どもたちが育って行ける地域であってほしいと思いました。(保護者)

参加したみんなが、前向きに対話できたことがよかったです。コロナ禍でも、できなかったことに目を向けるのではなく、大切なことが何かわかった、オンラインでもつながれるようになった、友だちと一緒に学ぶことや、じっさいに会って話すということが大切と実感できたことが話し合いの中でできてよかったです。(教育委員会職員)

協議の時間で、保護者の方から出た「学校に魅力がない」という話が心に刺さりました。どうすれば、魅力的な学校づくりができるか。コミスク等の活用もそうですが、もっともっと児童・生徒、保護者、地域、学校等で対話をしていくことが大切であることを改めて感じました。(教育委員会職員)

子どもの素朴な疑問の中に本質がある、改めてとても大切だと感じました。(教育委員会職員)